

補助事業の実績

本年度の「補助事業実施計画」に基づいた実績は以下のとおりである。

- ① 「キャリアデザインガイド1」(新入生ゼミ別キャリアガイダンスにて使用するガイドブック(教材)の作成にあたり、1年次から将来を見据えたグランドデザインを描くうえでのイメージや公務員希望者に対して「公務員資料室・公務員講座探訪」など掲載内容を充実させた。更に、学内において低学年キャリア講演会を外部講師により実施した。
- ② 4月に1年次に対して「キャリアデザインガイド1」を使用した新入生総括ガイダンスを行った。また、学部ごとの1年次ゼミナールの時間に、教員と共にキャリアガイダンスを実施した。学部別開催数は、経営学部2ゼミ・経済学部20ゼミ・国際関係学部19ゼミ(国際関係学部のみ2年次に実施・1年次後期に全員留学のため)・法学部24ゼミであり、その中で職業検索のための「職業マッチングチェックチャート」や「インプレッションゲーム」などワークショップを導入した授業を実施した。
- ③ 2年次実施のキャリア・インターンシップでは、履修者16名に対して、事前に提出書類作成・実習先選定のためにグループワークによる自己分析や、ビジネスマナー、インターンシップの心構えの講習、実習を行った。受け入れ企業・団体数は14社であり、その成果について、一般学生や教職員及び受け入れ企業担当者を対象に、平成23年10月に本学で成果報告会を実施した。
- ④ 本年度受検数は、職業興味検査(VRT及びVPI)161名、一般職業適性検査(GATB)195名が受検した。受検者のほとんどが両検査を活用している。この検査を基に、職業に対する興味と適性を知るヒントを得ることだけでなく、自己理解や具体的な職業を調べるきっかけとなった。また、両検査の受検者を対象に職業探索講座を行い、約18名の学生が職業ハンドブック(OHBY)の活用方法を学んだ。
- ⑤ 本学ホームページに職業対策WEBテスト「コンピテンシー診断」(職業興味検査、一般職業適性検査)を掲載し、1年生133名・2年生64名・計197名の学生が受検した。また、職業興味検査を受けると一般常識テストやSPIテストも受検できるように工夫されているので、これにより好きな時間に好きな場所で、「自己認識」及び基礎学力を高める機会を提供した。それぞれの学生のやりたいこと及びできることは何かの「自己認識」を深める機会を提供している。
- ⑥ キャリア科目の中で職業観を体系的に育成するために各科目3回外部講師を招き授業を行った。「人生と進路選択」(1年次授業科目)においては、「働くとは」「企業とは」等、学生それぞれの将来設計に役立つように、適宜、企業人(本学卒業生を含む)など外部講師を招き授業を行った。「キャリアデザイン」(1年次授業科目)においては、外部講師による授業だけでなく、コンピテンシー診断、職業適性検査受検後の解釈や、「ジョブインタビュー」実施後にグループ単位のプレゼンテーションに重点を置き、複数の仕事理解及びコミュニケーション能力の向上を図った。
- ⑦ 「キャリア委員会」の中に「キャリア教育評価委員会」を設置し、本プログラム取組みの実施体制の整備及び取組内容を明確にしている。メンバーはキャリア委員長、各学部キャリア委員、キャリア科目担当教員並びにキャリア支援課職員計14名で構成されている。評価活動として、委員会を3回開催し、キャリア関連科目や1年次のゼミナールにおけるキャリアガイダンスの内容を検討・評価し、教員にアンケートを実施するなど、本学におけるキャリア教育の改善に反映させ、学生自立意識の向上に繋げるような体制を整備している。

これらを通じて、採択された取組をさらに充実・発展させ、学生が自らの力で職業選択が出来るよう教職員一体となり大学全体で「個の支援」を図ることが、本補助事業の内容である。

補助事業に係る具体的な成果

本年度の「補助事業実施計画」に基づいた具体的な成果は以下のとおりである。

- ① ガイドブック（教材）にグランドデザインを描く上でのイメージ図や公務員資料室の利用案内等の新規掲載をすることによって、既存のものより説明がしやすくなり学生の利便性の向上につながった。また、低学年キャリア講演会においては、外部講師を招き、社会人の立場から、大学時代に学ぶべきことのアドバイスや生き方についてのメッセージをいただくことができた。これによって、活字にはない生の声を学生に届けることができ、学習計画を策定するうえで参考になると同時に自立意識の向上を図ることができた。
- ② ワークショップを導入したキャリアガイダンスを1年次ゼミナールにおいて実施し、学生の職業意識の向上及び社会人基礎力やコミュニケーション能力を高めることに繋がった。受講した学生からは「目標を持って有意義な大学生活を送りたいと思った。」「4年間無駄にならないように目標を作りたい。」「このガイダンスで、将来について考える良いきっかけになった。」など、これからの学生生活の目標を描かせることができ学生の意識が向上した。また、積極的にワークショップを導入したことで、「新しく友人ができてよかった」「友達との協調を図ってくれてとてもうれしかったです。」などコミュニケーション能力を高める一助となった。
- ③ キャリア・インターンシップに参加し、実社会での就業体験中そして実習後に振り返りを行うことにより、自分自身の現状と社会で求められているものを比較することができ、実習後の学生生活における課題を明確にすることができた。ビジネスマナー等が机上の知識ではなく実践的な知識となった。また、成果報告会を一般学生や教職員及び受け入れ企業担当者に対して行うことで、改めて自分自身の活動を振り返ることができた。また、大勢の前でパワーポイントを使用して発表する経験が大きな自信と共に自己成長に繋がった。
- ④ 職業興味検査（VRT・VPI）や一般職業適性検査（GATB）の結果を通じて、個々の職業興味領域や具体的な職業例を知ることができたという感想が多かった。また、職業興味度や自信度の結果数値から自己認識のヒントとし、就職活動に役立てたいと考えている学生やこの検査をきっかけに、キャリア支援課での個別相談を行う学生も増えた。この経験が高い能力要素を活かせる職業探索に進み、自己の強みと職業とのマッチング率を高める成果に繋がっている。
- ⑤ 職業対策 WEB テスト「コンピテンシー診断」「自己認識」を深める職業興味検査、一般職業適性検査の実施により、自分の好きなことと何ができるかを測定することで「自己認識」を深め、高い能力要素を活かせる職業探索に進むことが可能となった。この検査結果を個別面談の際にも活用し、職務の内容や仕事の役割に対して期待される成果を導く上での行動特性に繋がるようアドバイスをしている。
- ⑥ 1年次授業科目において、外部講師による授業や、ワークショップを積極的に導入した授業を行ったことで、学生それぞれの漠然としていた職業観がより明確となった。学生アンケートには「自分の将来と向き合うよいチャンスだった。これを機に目標を定めて努力していこうと思った。」などのコメントもあり、低学年からのキャリアデザインを描きやすくするための一助となった。
- ⑦ 「キャリア委員会」の中に「キャリア教育評価委員会」を設置することにより、「教職員一体による」という意識改善が図られた。1年次のゼミナールにおけるキャリアガイダンスに参加した教員のアンケートには「今後授業に限らず様々な場で活用すべきだと考えます。」「今後本学の教育の中にどのようにキャリア教育を位置付けるのか議論・研究が必要。」「キャリア教育を学部カリキュラムの中に反映させていくことが必要である。」など教員が大学生活とキャリア教育の重要性を認識する機会となった。この取組みは本学におけるキャリア教育の改善と学生の自立意識の向上に繋がる一助になっている。